

ふくふくファンド（宮城労福協社会貢献活動基金）
2010年度 助成事業報告書

年 月 日

団体名（ふりがな） 仙台市森林アドバイザーの会

事業名 スギ花粉とCO₂を斬る伐るプロジェクト

1. 実施事業の内容

助成金を使って行った事業について、記述してください。

まとめ 1. スギ花粉症対策と荒廃林整備を目的とした今回のプロジェクトにおいて、延11日の伐採整備活動を行いました。延参加人数は124名で、間伐採本数は486本に達し、目標とした200本を大幅に超えることができました。2. 地域住民（町内会）との協働作業として不法投棄ゴミの収集処理を実施（12月4日）しました。

間伐作業を実施した日にちと参加人員は次のとおりです。

2010年11月6日11名、11月17日9名、12月4日15名、12月15日10名、12月26日11名、2011年1月8日37名、1月19日9名、2月5日14名、2月16日11名、2月27日13名、3月5日10名。また、12月12日には4名にて現地にテーブル等を作る作業を実施しました。

間伐方法等

間伐するスギについては事前にテーピングを行うとともに、作業中においても光環境等に考慮して選定を行いました。

伐採作業

主に伐倒はチェーンソーを用いて行い、安全に伐倒を行うために用いるロープを樹にかける作業において林業用枝打ち梯子（助成金にて購入）が大いに役立ちました。伐倒木の整理においても鳶口（助成金にて購入）が役立ち、これらの結果として伐採本数が目標を超えたことにつながったのだと思います。

町内会との協働作業

12月4日に町内会23名、森林アドバイザーの会15名で林内の不法投棄ゴミ処理を行いました。

町内会とともにゴミ収集

枝打ち梯子を用いたロープ掛け



2. 事業の成果

今回の事業によって、どのような成果・効果がありましたか。

1. スギを 486 本伐採したことにより、スギ花粉の削減と日照被害が改善した。
2. これまで手入れがなされずに荒廃したスギ林が健全な林に整備されたことにより、CO2削減に寄与できた。さらに間伐により下層植生が豊かになり、生物多様性の向上に寄与できた。
3. 地域住民の長年の要望に応えることができた。
4. 地域住民（町内会）との協働作業の第一歩を踏み出すことができた。

伐採作業前



伐採作業後



3. 今後の展開

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。その際に必要なものは何ですか。

森林は手入れをし続けなければ、また荒廃林に戻っていきます。継続可能な手入れの仕組みを作るためには地域住民との協働が欠かせません。

このためには、手入れに不可欠な刈払機やチェーンソーを中心とする機材の購入充実が必要です。

さらにこれらの機材は危険性を伴うため取り扱う教育（林材業労災防止協会）を受ける必要があります。

できれば、森林整備作業を行うための基本的な教育を地域住民とともに学びながら、協働出来ればよいのではないのでしょうか。

4. 助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ふくふくファンド助成金	100,000	
会負担金	50,911	
合計	150,911	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
枝打ち梯子	29,400	アルミ製 3.12m 1丁
機材燃料費	15,902	ガソリン、2サイクルオイル、チェーンオイル2缶
鳶口（柄付）	14,700	2丁
通信費	4,380	会員、町内会等連絡報告
機材運搬費	11,000	1回1,000円、11回分
交通費	64,500	延127人
雑費	8,029	チェーン1本、印刷、文房具
合計	150,911	

5. メッセージ

宮城労働者福祉協議会へのメッセージをご記入ください。

助成金をいただきありがとうございました。

日本ではいまだに荒廃森林が増え続けています。荒廃森林を少なくしていくためには地道な継続的な作業を続けていく必要があることは言うまでもありません。しかし、このような作業に出る助成金の仕組みは少なく、多くの森林ボランティア団体が資金難に苦しんでいます。

その中でいただいた助成金は大変ありがたいものでした。今後ともよろしくお願い申し上げます。

バス停そばに「スギ花粉とCO₂を斬る伐るプロジェクト」「ふくふくファンド助成」を掲示して市民にアピールしました

